

卒業論文

容姿を変える女性たち

——他者との同調を意識する若年層女性——

2017 年度入学

九州大学 文学部 人文学科 人間科学部コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

2021 年 1 月 提出

要約

社会生活を送る上で容姿は重要な役割を担っている。特に女性は日常的に化粧、服飾等に気を使っており、近年では美容整形も珍しいことではなくなった。このような状況下において、若年層の女性たちに焦点を当て、容姿に関する生きづらさや彼女達がなぜ自身の容姿を変えようと志すのかを明らかにすることが本論文の目的である。

先行研究によれば、谷本奈穂(2018)や木村絵里子(2016)の研究から、女性美が近代化や公害の多発、消費社会の進展といった社会情勢に大きく左右されてきたことが明らかになった。また、現代の学校社会に目を向けると、ハイティーン女子においては、承認を求めて美貌競争が行われていること(栗田 2018)や、スクールカースト規定要因に生徒の容姿が大きな影響を与えていたことが確認された(鈴木 2011)。さらに、美容整形実践者にとって、女性同士のコミュニケーションが重要であることが示された(谷本 2017)。また、ミドルエイジの女性たちにとって、老いは病として捉えられ、治療の対象となっていることや、良妻賢母であれという規範と若く美しくあれという規範という 2 つの規範が同時に課せられていることも指摘された(谷本 2017)。さらに、現代の若者の特徴として、他者に同調的に生きていくことを意識する若者にとって SNS が都合のいい自己開示の場になっていること(正木 2018)や若者の間には一人を忌避し、誰かとつながっていかなければならないという強い同調圧力が潜んでいることも明らかになった(脇 2017)。

しかし、依然として老いに抗っている訳でもない若年層の女性たちがなぜ容姿を変えるのか、その実態にせまつた研究はなされていない。

本論文では 2 名の美容整形の実践者である若年層女性にインタビュー調査を行うことで、なぜ若年層の女性たちが容姿を変えることに驅られていくのか、そこに潜む生きづらさとはどのようなものなのかという問い合わせの試みた。

調査の結果、彼女達が容姿を変える動機として、従来指摘されてきた異性へのアピールという側面は希薄であることが明らかになった。恋愛と容姿が完全に切り離されたわけではないが、大勢の異性に好かれたいという、いわゆるモテたいという思いから自らの容姿を変えようとする意識は希薄であった。代わって、容姿を整えるうえで意識される他者は、友人や推しましたそのファンコミュニティの人々などであり、自分が認めて欲しいと思う周囲の人であるということが分かった。この変化の原因については、多様化する社会の中で、女性が結婚して子供を産んでというライフコースに以前ほどとらわれなくなったからではないか、もしくは多様な人間関係が築かれるうえで他者からの承認を得る手段の一つとして容

姿を磨こうという考えに至ったのではないかと考察している。

また、自分が所属するコミュニティから浮きたくないという強い思いによって、自らの容姿を変えていく姿が明らかになった。若年層の女性たちが容姿を変えようと志す契機には他者からのまなざしが深くかかわっており、周囲の人の程度に合わせて、容姿を変化させる様子が明らかになった。注目すべき点は、他者からの承認を意識するうえで、周囲より美しくあることで認められようとしているのではないという点である。若年層の女性たちは、悪すぎない、そして良すぎもしないというコミュニティ内の平均的な位置を保つことで、コミュニティから浮いていないという状態を獲得することに注力していたのである。コミュニティから浮かないことは、義務のようにもとらえられており、容姿の醜陋までも周囲から浮かないようにしようとする点において、若年層の女性たちの間には、強い同調圧力が潜んでいることが明らかになった。

さらに、コミュニティに合わせて自らの容姿を変化させようという意識の結果、目指すべき容姿に合わない自身の容姿はコンプレックスととらえられており、変化させるべき対象となっていることが明らかになった。一度コンプレックスと認識された自分の容姿については、肯定することができなくなってしまい、それが積み重なった結果、自己肯定感が低く、自己が抑制されていく様子も見えてきた。

つまり、若年層の女性たちが容姿を変えようと志す理由としては、周囲から浮きたくないという意識が大きいという結論に至った。彼女たちが直接的に周囲から浮かないために容姿を変えたと発言する事はないが、容姿を変えるに至る背景には他者が非常に深く関わっている。また、周囲から浮かないようにと過度に同調を意識した結果、自己抑制を行っているのである。このことが、若年層の女性たちが容姿に関して抱いている生きづらさのではないかという答えに至った。

目次

1 研究の目的	1
2 先行研究	3
2.1 美容の歴史と社会とのかかわり	3
2.2 容姿と学校社会での地位	7
2.3 若者の承認欲求	10
2.4 美容整形および外見を整える行為と他者関係	13
2.5 ミドルエイジの女性たちと美	16
2.6 先行研究のまとめ	18
3 インタビュー調査	20
3.1 Aさんへのインタビュー	21
3.2 Bさんへのインタビュー	26
4 他者のまなざしによって変わる容姿	33
4.1 異性へのアピールという意識の希薄化	33
4.2 浮かないという最低限の規範	35
4.3 抑制される自己	38
5 結論	40
参考文献	45
謝辞	47